

工 事 計 画 届 出 書

(高浜発電所第1号機の変更の工事)

関原発第 346 号

2020年 12月 18日

経済産業大臣

梶山 弘志 殿

原子力規制委員会 殿

大阪市北区中之島 3丁目 6番 16号

関西電力株式会社

執行役社長 森本



電気事業法第48条第1項の規定により別紙のとおり工事の計画を届け出ます。

本資料のうち、枠囲みの内容は、
商業機密あるいは防護上の観点
から公開できません。

高浜発電所第1号機

工事計画届出書

本文及び添付書類

関西電力株式会社

目 次

	頁
I. 工事計画書	1
II. 工事工程表	75
III. 変更を必要とする理由を記載した書類	76
IV. 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の認可の申請をした 年月日を記載した書類	77
V. 添付書類	78

I. 工事計画書

一 発電所

1. 発電所の名称及び位置

名称	高浜発電所
位置	福井県大飯郡高浜町田ノ浦

2. 発電所の出力及び周波数

出力	3,392,000 kW	
第1号機	826,000 kW	(今回届出分)
第2号機	826,000 kW	
第3号機	870,000 kW	
第4号機	870,000 kW	
周波数	60 Hz	

(一) 原子力設備

今回の変更工事のみ記載する。

5. 放射線管理設備（加圧水型原子力発電設備）

5. 1 放射線管理用計測装置に係る次の事項

(1) プロセスモニタリング設備に係る次の事項

へ 放射性物質により汚染するおそれがある管理区域から環境に放出する排水中又は排気中の放射性物質濃度を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所及び個数

(1/3)

変 更 前						変 更 後						
名 称	(注1) 検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付箇所		個 数	名 称	検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数
(注2,3) 廃樹脂貯蔵室 じんあい モニタ (1・2 号機共用)	(注4)	10cpm ～ 10 ⁷ cpm	10cpm ～ 10 ⁷ cpm	系 統 名 (ラ イ ン 名)	(注5) 廃樹脂貯蔵室 じんあいモニタ ー	1	廃樹脂貯蔵室 じんあい モニタ (1・2・ 3・4 号機共用)				変更なし	
				設 置 床								

変 更 前						変 更 後						
名 称	(注1) 検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付箇所		個 数	名 称	検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数
(注8) 廃樹脂貯蔵室 ガスモニタ (1・2 号機共用)	(注9)	10cpm ～ 10 ⁷ cpm	10cpm ～ 10 ⁷ cpm	系 統 名 (ラ イ ン 名)	(注5) 廃樹脂貯蔵室 ガスモニタ —	1	廃樹脂貯蔵室 ガスモニタ (1・2・ 3・4 号機共用)				変更なし	
				設 置 床								

変 更 前						変 更 後						
名 称	(注1) 検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付箇所		個 数	名 称	検出器 の種類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数
(注11) 廃樹脂 処理建屋 排気ガス モニタ (1・2 号機共用)		10cpm ～ 10 ⁷ cpm	10cpm ～ 10 ⁷ cpm	系 統 名 (ラ イ ン 名)	(注5) 廃樹脂処理建屋 排気ガスモニタ —	1	廃樹脂 処理建屋 排気ガス モニタ (1・2・ 3・4 号機共用)				変更なし	
				設 置 床								

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「検出器種類」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書の「測定線種」の記載を削除

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室塵埃モニタ（2号機と共用）」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「シンチレーションカウンタ」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室」と記載

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「監視方法「指示（中央制御室） 記録、警報（中央制御室及び放射線管理室）」」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室ガスモニタ」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「プラスチックシンチレーション検出器」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「監視・記録の場所「中央制御室」」と記載

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋排気ガスモニタ」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋排気ダクト」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「監視記録は1号機中央制御室」と記載

(2) エリアモニタリング設備に係る次の事項

ニ 放射性物質により汚染するおそれがある管理区域内の人の放射線防護を目的として線量当量率を計測する装置の名称、検出器の種類、計測範囲、取付箇所及び個数

変更前						変更後						
名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所		個数	名称	検出器の種類	計測範囲	警報動作範囲	取付箇所	個数
廃樹脂貯蔵室 エリアモニタ (1・2 号機共用)	□	1 μSv/h ～ 10 ⁵ μSv/h	1 μSv/h ～ 10 ⁵ μSv/h	系 統 名 (ライン名)	廃樹脂貯蔵室 エリアモニタ -	1	廃樹脂貯蔵室 エリアモニタ (1・2・ 3・4 号機共用)	□	□	□	□	□
				設 置 床	設 置 床							
							変更なし					

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室（監視・記録は中央制御室）」と記載

5. 2 換気設備に係る次の事項

(1) 送風機の名称、種類、容量、主要寸法及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数

			変更前	変更後	
名称			廃樹脂貯蔵室送気ファン (1・2・3・4号機共用) <small>(注1, 2, 3)</small>	変更なし	
送風機	種類	—	遠心式 <small>(注4)</small>		
	容量	m ³ /min/個	□以上 <small>(注5)</small> (110 <small>(注6)</small>)		
	主要寸法	吸込口径	mm		470 <small>(注5, 6)</small>
		吐出口径	mm		480×360 <small>(注5, 6)</small>
		たて	mm		1,300 <small>(注5, 6)</small>
		横	mm		1,020 <small>(注5, 6)</small>
		高さ	mm		910 <small>(注5, 6)</small>
個数	—	1			
原動機	種類	—	三相誘導電動機 <small>(注5)</small>		
	出力 <small>(注7)</small>	kW/個	3.7		
	個数	—	1		

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書の「静圧」の記載を削除

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室送気ファン（2号機と共用）」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心翼形ベルト駆動」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注6) 公称値

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動機出力」と記載

			変 更 前	変 更 後	
名 称			<small>(注1, 2)</small> 廃樹脂処理建屋給気ファン (1・2・3・4号機共用)	変更なし	
送風機	種 類	—	遠心式		
	容 量	m ³ /min/個	□以上 <small>(注3)</small> (440 <small>(注4)</small>)		
	主要寸法	吸 込 口 径	mm		853 <small>(注3, 4)</small>
		吐 出 口 径	mm		798×628 <small>(注3, 4)</small>
		た て	mm		1,800 <small>(注3, 4)</small>
		横	mm		1,450 <small>(注3, 4)</small>
		高 さ	mm		1,675 <small>(注3, 4)</small>
個 数	—	2			
原動機	種 類	—	三相誘導電動機 <small>(注3)</small>		
	出 力	kW/個	22 <small>(注3)</small>		
	個 数	—	2		

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋給気ファン（1，2号機共用）」と記載

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注4) 公称値

(2) 排風機の名称、種類、容量、主要寸法及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数

			変更前	変更後	
名称			廃樹脂貯蔵室排気ファン (1・2・3・4号機共用) <small>(注1, 2, 3)</small>	変更なし	
排風機	種類	—	遠心式 <small>(注4)</small>		
	容量	m ³ /min/個	□以上 <small>(注5)</small> (110 <small>(注6)</small>)		
	主要寸法	吸込口径	mm		467 <small>(注5, 6)</small>
		吐出口径	mm		400×334 <small>(注5, 6)</small>
		たて	mm		1,392 <small>(注5, 6)</small>
		横	mm		982 <small>(注5, 6)</small>
		高さ	mm		944 <small>(注5, 6)</small>
個数	—	1			
原動機	種類	—	三相誘導電動機 <small>(注5)</small>		
	出力 <small>(注7)</small>	kW/個	7.5		
	個数	—	1		

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書の「静圧」の記載を削除

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室排気ファン（2号機と共用）」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心翼形ベルト駆動」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注6) 公称値

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「電動機出力」と記載

			変 更 前	変 更 後	
名 称			<small>(注1, 2)</small> 廃樹脂処理建屋排気ファン (1・2・3・4号機共用)	変更なし	
排 風 機	種 類	—	遠心式		
	容 量	m ³ /min/個	□以上 <small>(注3)</small> (440 <small>(注4)</small>)		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		903 <small>(注3, 4)</small>
		吐 出 口 径	mm		851×671 <small>(注3, 4)</small>
		た て	mm		1,886 <small>(注3, 4)</small>
		横	mm		1,585 <small>(注3, 4)</small>
		高 さ	mm		1,750 <small>(注3, 4)</small>
個 数	—	2			
原 動 機	種 類	—	三相誘導電動機 <small>(注3)</small>		
	出 力	kW/個	30 <small>(注3)</small>		
	個 数	—	2		

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書の「廃樹脂処理建屋排気ファン（1，2号機共用）」と記載

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注4) 公称値

(3) フィルターの名称、種類、効率、主要寸法及び個数

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃樹脂貯蔵室排気フィルタユニット (1・2・3・4号機共用) <small>(注1, 2, 3)</small>	変更なし
種	類	—	微粒子フィルタ	
効 率	単 体 除 去 効 率	%	99.97 以上 (0.3 μm粒子) <small>(注4)</small>	
	総 合 除 去 効 率	%/個	99 以上 (0.7 μm粒子) <small>(注4)</small>	
主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	550 <small>(注4, 5)</small>	
	吐 出 口 径	mm	550 <small>(注4, 5)</small>	
	た	mm	1,706.4 <small>(注4, 5)</small>	
	横	mm	2,606.4 <small>(注4, 5)</small>	
	高	mm	1,646.4 <small>(注4, 5)</small>	
個	数	—	1	

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書の「容量」、「材料」の記載を削除

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室排気フィルタユニット（2号機と共用）」と記載

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注5) 公称値

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃樹脂処理建屋排気フィルタユニット (1・2・3・4号機共用) <small>(注1,2)</small>	変更なし
種 類	—	微粒子フィルタ		
<small>(注3)</small> 効 率	単 体 除 去 効 率	%	99.97 以上 (0.3 μ m粒子)	
	総 合 除 去 効 率	%/個	99 以上 (0.7 μ m粒子)	
主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm	505×1,105 <small>(注4,5)</small>	
	吐 出 口 径	mm	505×1,105 <small>(注4,5)</small>	
	た て	mm	3,376.4 <small>(注4,5)</small>	
	横	mm	2,406.4 <small>(注4,5)</small>	
	高 さ	mm	1,591.4 <small>(注4,5)</small>	
個 数	—	1		

(注1) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋排気フィルタユニット（1，2号機共用）」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「能力」と記載

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注5) 公称値

5. 3 生体遮へい装置の名称、種類、主要寸法、冷却方法及び材料

(1/4)

変更前					変更後				
名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材 料	名 称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材料
補助遮へい	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵庫 (1・2 号機共用)	北壁	1.245 ^(注2) (1.250 ^(注3,4))	自然冷却 ^(注5)	鉄筋コンクリート ^(注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)	補助遮へい	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵庫 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし	
		南壁	1.245 ^(注2) (1.250 ^(注3,4))	自然冷却 ^(注5)	鉄筋コンクリート ^(注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		東壁	1.245 ^(注2) (1.250 ^(注3,4))	自然冷却 ^(注5)	鉄筋コンクリート ^(注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
			0.795 ^(注2) (0.800 ^(注2,3))	自然冷却 ^(注5)	鉄筋コンクリート ^(注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				

変更前					変更後				
名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材 料	名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材料
補助遮へい	(注1) E.L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵庫 (1・2 号機共用)	北壁	1.245 (注2) (1.250 (注3,4))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)	補助遮へい	E.L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵庫 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし	
			0.895 (注2) (0.900 (注2,3))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		南壁	1.245 (注2) (1.250 (注3,4))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
			0.895 (注2) (0.900 (注2,3))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		東壁	1.245 (注2) (1.250 (注3,4))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
			0.895 (注2) (0.900 (注2,3))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
			0.795 (注2) (0.800 (注2,3))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		天井	0.995 (注2) (1.000 (注2,3))	(注5) 自然冷却	鉄筋コンクリート (注6,7) (密度2.1g/cm ³ 以上)				

変更前					変更後				
名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材 料	名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材料
補助 遮へい	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2 号機共用)	(注8) 北壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし		
		南壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		西壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2 号機共用)	(注8) 北壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし		
		南壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)				
		西壁	0.995 (注2) (1.000 (注3,9))	自然冷却	鉄筋コンクリート (注10) (密度2.1g/cm ³ 以上)				

変更前					変更後				
名称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材 料	名 称	種類	主要寸法 (最小厚さ)(m)	冷却 方法	材料
補助 遮へい	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2 号機共用)	北壁	0.495 (0.500 (注3))	自然冷却	補助 遮へい	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂 処理建屋 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし		
		南壁	0.495 (0.500 (注3))	自然冷却					
		東壁	0.495 (0.500 (注3))	自然冷却					
		西壁	0.495 (0.500 (注3))	自然冷却					
		天井	0.895 (0.900 (注3))	自然冷却					

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵タンクしゃへい（増設分）（2号機と共用）」及び「廃樹脂貯蔵タンク室」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1.25」と記載

(注5) 一部について記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気冷却」と記載

(注6) 一部について記載の適正化を行う。既工事計画書には「比重2.1」と記載

(注7) 一部について既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク室」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1.0」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「比重2.1以上」と記載

6 廃棄設備

6. 1 気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備に係る次の事項

(2) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

(1/2)

			変更前	変更後
名 称			(注1) A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク (1・2号機共用)	A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク (1・2・3・4 号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	変更なし
容 量	m ³ /個		□以上 (注2) (15 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.7 (注4)	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	2,500 (注3)	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注2, 3)	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (注2, 3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2,500 (注2, 3, 5) 625 (注2, 3, 6)	
	樹脂入口管台外径	mm	60.3 (注2, 3)	
	樹脂入口管台厚さ	mm	□ (注2) (3.9 (注2, 3))	
	樹脂出口管台外径	mm	60.3 (注2, 3)	
	樹脂出口管台厚さ	mm	□ (注2) (3.9 (注2, 3))	
	マンホール管台外径	mm	457.2 (注2, 3)	
	マンホール管台厚さ	mm	□ (注2) (14.3 (注2, 3))	
	マンホールふた厚さ	mm	□ (注2) (39.7 (注2, 3))	
高 さ (注7)	mm	3,672 (注3, 8)		
材 料	胴 板	—	SUS304 (注9)	
	鏡 板	—	SUS304 (注9)	
	マンホールふた	—	(注2) ASME SA-264 (クラッド鋼板) ASME SA-516 Gr. 70 (SGV480相当) ASME SA-240 TP304L (SUS304L相当)	

		変 更 前	変 更 後
個	数	4	変更なし
漏えい防止のための 制 御 方 法	—	(注2) 水位高警報による 純水供給弁の手動閉止操作	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵タンク(2号機と共用)」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) SI単位に換算したものである。

(注5) 鏡板の内面における長径を示す。

(注6) 鏡板の内面における短径の2分の1を示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には支持脚を含めた高さである「4,242」と記載。記載内容は、設計図書による。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS304-HP」と記載

			変更前	変更後
名称			(注1) E、F、G、H 廃樹脂貯蔵タンク (1・2号機共用)	E、F、G、H 廃樹脂貯蔵タンク (1・2・3・4 号機共用)
種類		—	たて置円筒型	変更なし
容量	m ³ /個		□以上 (注2) (15 (注3))	
最高使用圧力	MPa		0.7 (注4)	
最高使用温度	℃		65	
主要寸法	胴内径	mm	2,500 (注3)	
	胴板厚さ	mm	□ (注5) (12 (注2,3))	
	鏡板厚さ	mm	□ (注6) (16 (注2,3))	
	鏡板の形状に 係る寸法	mm	2,500 (注2,3,7) 625 (注2,3,8)	
	樹脂入口管台外径	mm	60.5 (注2,3)	
	樹脂入口管台厚さ	mm	□ (注2) (3.9 (注2,3))	
	樹脂出口管台外径	mm	60.5 (注2,3)	
	樹脂出口管台厚さ	mm	□ (注2) (3.9 (注2,3))	
	マンホール管台外径	mm	457.2 (注2,3)	
	マンホール管台厚さ	mm	□ (注2) (19 (注2,3))	
	マンホールふた厚さ	mm	□ (注2) (39.6 (注2,3))	
	高さ (注9)	mm	3,580 (注3,10)	
材料	胴板	—	SUS304	
	鏡板	—	SUS304	
	マンホールふた	—	SUS304 (注2)	
個数	—	4		
(注11) 漏えい防止のための 制御方法		—	(注12) 水位高警報による 純水供給弁の手動閉止操作	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵タンク」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) SI単位に換算したものである。

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注7) 鏡板の内面における長径を示す。

(注8) 鏡板の内面における短径の2分の1を示す。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には支持脚を含めた高さである「4,251」と記載。
記載内容は、設計図書による。

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー」と記載

6. 2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備に係る次の事項

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃樹脂処理装置 (1・2号機共用)	廃樹脂処理装置 (1・2・3・4号機共用)
種 類	—		硫酸溶離式	変更なし
処 理 能 力	m ³ /回		0.25 (注1)	
個 数	—		1	

(注1) 公称値

			変 更 前	変 更 後
名 称			溶離廃液濃縮装置 (1・2号機共用)	溶離廃液濃縮装置 (1・2・3・4号機共用)
種 類	—		浸漬式	変更なし
処 理 能 力	m ³ /h/個		0.06 (注2)	
個 数	—		1	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置」と記載

(注2) 公称値

(1) 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、伝熱面積、主要寸法、材料及び個数

(1/2)

		変更前	変更後		
名称		(注1) コンデンサ (1・2号機共用)	コンデンサ (1・2・3・4号機共用)		
種類	—	たて置コイル式	変更なし		
容量 (設計熱交換量)	(注2) kW/個	<input type="text"/> 以上 (注3) (4.08×10 ¹ (注4))			
胴側	最高使用圧力	MPa		0.1	
	最高使用温度	℃		120	
管側	最高使用圧力	MPa		0.98	
	最高使用温度	℃		95	
伝熱面積	m ² /個	<input type="text"/> 以上 (注3) (0.75 (注4))			
主要寸法	胴側	胴外径		mm	267.4 (注4)
		胴板厚さ		mm	<input type="text"/> (注5) (6.5 (注4,6))
		上部平板厚さ		mm	(注7) (30.2 (注4,6))
		下部平板厚さ		mm	(注8) (20.0 (注4,6))
		蒸気入口径		mm	60.5 (注4,9)
		蒸気入口厚さ		mm	<input type="text"/> (注9) (3.9 (注4,6))
		凝縮液出口径		mm	27.2 (注4,9)
		凝縮液出口厚さ		mm	<input type="text"/> (注9) (2.9 (注4,6))
		上部フランジ厚さ		mm	<input type="text"/> (注3) (30.2 (注3,4))
		管側		冷却水入口径	mm
冷却水入口厚さ	mm		<input type="text"/> (注9) (3.25 (注4,6))		
冷却水出口径	mm		26.0 (注4,9)		
冷却水出口厚さ	mm		<input type="text"/> (注9) (3.25 (注4,6))		
伝熱管外径	mm	19.0 (注4)			
伝熱管厚さ	mm	<input type="text"/> (注9) (1.2 (注4))			
高さ (注10)	mm	900 (注4,11)			

			変 更 前	変 更 後	
材 料	胴 側	胴 板	—	SUS304TP	変 更 な し
		上 部 平 板	—	SUS304	
		下 部 平 板	—	SUS304	
		上 部 フ ラ ン ジ	—	SUS304 (注6)	
	伝 熱 管	—	SUS304TB		
個	数	—	1		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コンデンサ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「kJ/h/個」と記載

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注4) 公称値

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-6図「廃棄設備の構造図(コンデンサ)」による。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注9) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「1,100」と記載。記載内容は、設計図書による。

(2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数

			変更前	変更後	
名称			(注1, 2) 廃液供給ポンプ (1・2・3・4号機共用)	変更なし	
ポンプ	種類	—	往復形		
	容量 (注3)	m ³ /h/個	□以上 (注4) (0.06 (注5))		
	吐出圧力	MPa	□以上 (注4) (0.15 (注5))		
	最高使用圧力	MPa	0.98 (注4)		
	最高使用温度	℃	65 (注4)		
	主要寸法	吸込口径	mm		□ (注4, 5)
		吐出口径	mm		□ (注4, 5)
		たて	mm		506 (注4, 5)
		横	mm		679 (注4, 5)
		高さ	mm		210 (注5, 6)
材料	リキッド シリンダー	—	GNCF3		
個数	—	1			
原動機	種類	—	三相誘導電動機 (注7)		
	出力	kW/個	0.75		
	個数	—	1		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液供給ポンプ」と記載

(注2) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注5) 公称値

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料2「耐震計算書」による。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3相誘導電動機」と記載

			変 更 前	変 更 後	
名 称			(注1, 2) 濃縮液ポンプ (1・2・3・4号機共用)	変更なし	
ポンプ	種 類	—	うず巻形		
	容 量 (注3)	m ³ /h/個	□以上 (注4) (1.3 (注5))		
	揚 程 (注6)	m	□以上 (注4) (15 (注5))		
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.98 (注4)		
	最 高 使 用 温 度	℃	120 (注4)		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		□ (注5, 7)
		吐 出 口 径	mm		□ (注4, 5)
		た て	mm		60 (注4, 5)
		横	mm		640 (注4, 5)
		高 さ	mm		160 (注5, 7)
材 料	ケ ー シ ン グ	—	GNCF3		
個 数	—	1			
原 動 機	種 類	—	三相誘導電動機 (注8)		
	出 力	kW/個	1.5		
	個 数	—	1		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮液ポンプ」と記載

(注2) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格容量」と記載

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注5) 公称値

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「定格揚程」と記載

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け
平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料2「耐震計算書」による。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3相誘導電動機」と記載

(4) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名称			廃樹脂供給タンク (1・2号機共用) <small>(注1)</small>	廃樹脂供給タンク (1・2・3・4号機共用)
種類	—		たて置円筒形	変更なし
容量	m ³ /個		□以上 <small>(注2)</small> (12 <small>(注3)</small>)	
最高使用圧力	MPa		0.98	
最高使用温度	℃		65	
主要寸法	胴内径	mm	2,400 <small>(注3)</small>	
	胴板厚さ	mm	□ <small>(注4)</small> (19 <small>(注3,5)</small>)	
	鏡板厚さ	mm	□ <small>(注4)</small> (19 <small>(注3,5)</small>)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2,400 <small>(注3,6,7)</small> 600 <small>(注2,3,8)</small>	
	樹脂入口管台外径	mm	60.5 <small>(注3,6)</small>	
	樹脂入口管台厚さ	mm	□ <small>(注2)</small> (3.9 <small>(注2,3)</small>)	
	樹脂出口管台外径	mm	60.5 <small>(注3,6)</small>	
	樹脂出口管台厚さ	mm	□ <small>(注2)</small> (3.9 <small>(注2,3)</small>)	
	樹脂出口管台外径	mm	60.5 <small>(注3,6)</small>	
	樹脂出口管台厚さ	mm	□ <small>(注2)</small> (3.9 <small>(注2,3)</small>)	
	マンホール管台外径	mm	406.4 <small>(注3,6)</small>	
	マンホール管台厚さ	mm	□ <small>(注6)</small> (21.4 <small>(注2,3)</small>)	
	マンホールふた厚さ	mm	□ <small>(注2)</small> (36.5 <small>(注2,3)</small>)	
高さ <small>(注9)</small>	mm	3,164 <small>(注3,10)</small>		
材料	胴板	—	SUS304	
	鏡板	—	SUS304	
	マンホールふた	—	SUS304 <small>(注2)</small>	
個数	—	1		
漏えい防止のための制御方法	—		サンプタンク水位高警報による 純水供給弁の手動閉止操作 <small>(注11)</small>	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-9図「廃棄設備の構造図（廃樹脂供給タンク）」による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付資料2「強度計算書」による。
- (注7) 鏡板の内面における長径を示す。
- (注8) 鏡板の内面における短径の2分の1を示す。
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「3,850」と記載。記載内容は、設計図書による。
- (注11) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) 溶離器 (1・2号機共用)	溶離器 (1・2・3・4号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	変更なし
容 量	m ³ /個		□以上 (注2) (0.25 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	—		大気圧	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	500 (注3)	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	底 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	底 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	500 (注3,6,7) 40 (注3,6,8)	
	屋 根 板 厚 さ	mm	□ (注2) (6.0 (注2,3))	
	廃樹脂入口管台外径	mm	60.5 (注3,6)	
	廃樹脂入口管台厚さ	mm	□ (注6) (3.9 (注2,3))	
	溶離液入口管台外径	mm	165.2 (注3,6)	
	溶離液入口管台厚さ	mm	□ (注6) (6.0 (注3,5))	
	廃樹脂出口管胴外径	mm	165.2 (注3,6)	
	廃樹脂出口管胴厚さ	mm	□ (注6) (6.0 (注3,5))	
	高 さ (注9)	mm	3,300 (注3)	
材 料	胴 板	—	GNCF3	
	底 板	—	GNCF3	
	廃樹脂出口管胴	—	GNCF3 (注5)	
	屋 根 板	—	GNCF3 (注5)	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		(注10) 水位高による入口弁 自動閉回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離器」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-7図「廃棄設備の構造図(溶離

器)」による。

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。

(注7) 底板の最大内径を示す。

(注8) 底板のすその丸みの内半径を示す。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注10) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) 硫酸回収器 (1・2号機共用)	硫酸回収器 (1・2・3・4 号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m ³ /h/個		□以上 (注2) (0.055 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	—		大気圧	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1,900 (注3)	変 更 な し
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	底 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	底 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1,900 (注3,6,7) 190 (注3,6,8)	
	屋 根 板 厚 さ	mm	□ (注2) (6.0 (注2,3))	
	溶 離 液 入 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3,6)	
	溶 離 液 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (5.65 (注2,3))	
	溶 離 廃 液 出 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3,6)	
	溶 離 廃 液 出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (5.65 (注2,3))	
	P MW 入 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3,6)	
	P MW 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (5.65 (注2,3))	
	溶 離 液 出 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3,6)	
	溶 離 液 出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (5.65 (注2,3))	
	ハ ン ド ホ ー ル 管 台 外 径	mm	267.4 (注3,6)	
	ハ ン ド ホ ー ル 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (6.0 (注3,5))	
	高 さ (注9)	mm	2,006 (注3,10)	
材 料	胴 板	—	GNCF3	
	底 板	—	GNCF3	
	屋 根 板	—	SUS304 (注5)	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		(注11) 水位高による入口弁 手動閉止操作	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「硫酸回収器」と記載

- (注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注3) 公称値
- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載
- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-8図「廃棄設備の構造図(硫酸回収器)」による。
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。
- (注7) 底板の中央部内半径を示す。
- (注8) 底板の隅の丸み半径を示す。
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「2,306」と記載。
記載内容は、設計図書による。
- (注11) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

			変更前	変更後
名称			(注1) A中和タンク (1・2号機共用)	A中和タンク (1・2・3・4号機共用)
種類	—		たて置円筒形	変更なし
容量	m ³ /個		□以上 (注2) (1.0 (注3))	
最高使用圧力	—		大気圧	
最高使用温度	℃		65	
主要寸法	胴内径	mm	1,000 (注3)	
	胴板厚さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3, 5))	
	底板厚さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3, 5))	
	底板の形状に係る寸法	mm	1,000 (注3, 6, 7) 100 (注3, 6, 8)	
	屋根板厚さ	mm	□ (注2) (6.0 (注2, 3))	
	溶離廃液入口管台外径	mm	39.0 (注3, 5)	
	溶離廃液入口管台厚さ	mm	□ (注2) (5.65 (注3, 5))	
	出口管台外径	mm	27.2 (注3, 6)	
	出口管台厚さ	mm	□ (注6) (2.9 (注3, 5))	
	高さ (注9)	mm	1,708 (注3, 10)	
材料	胴板	—	GNCF3	
	底板	—	GNCF3	
	屋根板	—	GNCF3 (注5)	
個数	—		1	
漏えい防止のための制御方法	—		水位高による流入弁自動閉回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A中和タンク」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-4図「廃棄設備の構造図 (A中和タンク)」による。

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。

(注7) 底板の中央部内半径を示す。

(注8) 底板の隅の丸み半径を示す。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「2,008」と記載。

記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) B中和タンク (1・2号機共用)	B中和タンク (1・2・3・4 号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	変更なし
容 量	m ³ /個		□以上 (注2) (1.0 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	—		大気圧	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1,000 (注3)	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3, 5))	
	底 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3, 5))	
	底 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1,000 (注3, 6, 7) 100 (注3, 6, 8)	
	屋 根 板 厚 さ	mm	□ (注2) (6.0 (注2, 3))	
	溶 離 廃 液 入 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3, 5)	
	溶 離 廃 液 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注2) (5.65 (注3, 5))	
	出 口 管 台 外 径	mm	48.6 (注3, 6)	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (3.7 (注3, 5))	
	高 さ (注9)	mm	1,708 (注3, 10)	
材 料	胴 板	—	GNCF3	
	底 板	—	GNCF3	
	屋 根 板	—	GNCF3 (注5)	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		水位高による流入弁 自動閉回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B中和タンク」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8
資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-5図「廃棄設備の構造図 (B中和タ
ンク)」による。

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け
平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。

(注7) 底板の中央部内半径を示す。

(注8) 底板の隅の丸み半径を示す。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「2,008」と記載。
記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) 蒸発器 (1・2号機共用)	蒸発器 (1・2・3・4 号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m ³ /h/個		□以上 (注2) (0.06 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.1	
最 高 使 用 温 度	℃		120	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	800 (注3)	変 更 な し
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6.0 (注3,5))	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	800 (注3,6,7) 80 (注3,6,8)	
	液 入 口 管 台 外 径	mm	39.0 (注3,6)	
	液 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (5.65 (注3,5))	
	液 出 口 管 台 外 径	mm	48.6 (注3,6)	
	液 出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (3.7 (注3,5))	
	循 環 液 入 口 管 台 外 径	mm	47.0 (注3,6)	
	循 環 液 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (6.25 (注3,5))	
	蒸 気 出 口 管 台 外 径	mm	60.5 (注3,6)	
	蒸 気 出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (3.9 (注2,3))	
	ヒ ー タ 取 付 管 台 外 径	mm	412.0 (注3,6)	
	ヒ ー タ 取 付 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (6.0 (注3,5))	
	ヒ ー タ 取 付 管 台 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	□ (注2) (47.0 (注2,3))	
高 さ (注9)	mm	2,150 (注3,10)		
材 料	胴 板	—	GNCF1	
	鏡 板	—	GNCF1	
	ヒ ー タ 取 付 管 台 フ ラ ン ジ	—	SUS304 (注5)	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	(注11) 水位高による流入弁 自動閉回路		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸発器」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-3図「廃棄設備の構造図(蒸発器)」による。

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成10年3月9日付け平成09・12・04資第9号にて認可された工事計画の添付資料1「強度計算書」による。

(注7) 鏡板の中央部内半径を示す。

(注8) 鏡板の隅の丸み半径を示す。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「2,450」と記載。
記載内容は、設計図書による。

(注11) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

			変更前	変更後
名 称			(注1) 濃縮廃液タンク (1・2号機共用)	濃縮廃液タンク (1・2・3・4号機共用)
種 類	—		たて置円筒形	変更なし
容 量	m ³ /個		□以上 (注2) (20 (注3))	
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.7	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	2,500 (注3)	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (19 (注3,5))	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (注4) (19 (注3,5))	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2,500 (注3,6,7) 625 (注2,3,8)	
	入 口 管 台 外 径	mm	47.2 (注3,6)	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (6.35 (注2,3))	
	出 口 管 台 外 径	mm	47.2 (注3,6)	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (注6) (6.35 (注2,3))	
	マンホール管台外径	mm	406.4 (注3,6)	
	マンホール管台厚さ	mm	□ (注6) (21.4 (注2,3))	
	マンホールふた厚さ	mm	□ (注2) (36.5 (注2,3))	
	高 さ (注9)	mm	4,652 (注3,10)	
材 料	胴 板	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
	マンホールふた	—	SUS316L (注2)	
個 数	—		2	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		(注11) 水位高による溶離廃液濃縮装置 出口弁の自動閉回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液タンク」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8
資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-10図「廃棄設備の構造図(濃縮廃
液タンク)」による。

- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付資料2「強度計算書」による。
- (注7) 鏡板の内面における長径を示す。
- (注8) 鏡板の内面における短径の2分の1を示す。
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書にはスカートを含めた高さである「5,340」と記載。記載内容は、設計図書による。
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ー」と記載

			変更前	変更後	
名称			<small>(注1)</small> 廃樹脂貯蔵室 Aサンプタンク (1・2号機共用)	廃樹脂貯蔵室 Aサンプタンク (1・2・3・4号機共用)	
種類		—	ピット式角形		
容量		m ³ /個	□以上 <small>(注2)</small> (4.3 <small>(注3)</small>)		
最高使用圧力		—	大気圧		
最高使用温度		℃	65		
主要寸法	横		mm	1,900 <small>(注3)</small>	変更なし
	たて		mm	1,000 <small>(注3)</small>	
	深さ		mm	2,300 <small>(注3)</small>	
	厚さ	胴板	mm	□ <small>(注2)</small> (6 <small>(注3)</small>)	
		底板	mm	□ <small>(注2)</small> (6 <small>(注3)</small>)	
		蓋板	mm	□ <small>(注2)</small> (12 <small>(注3)</small>)	
	廃液入口管台外径		mm	114.3 <small>(注2,3)</small>	
	廃液入口管台厚さ		mm	□ <small>(注2)</small> (6 <small>(注2,3)</small>)	
	廃液入口管台外径		mm	60.3 <small>(注2,3)</small>	
	廃液入口管台厚さ		mm	□ <small>(注2)</small> (3.9 <small>(注2,3)</small>)	
材料	胴板	—	SUS304L <small>(注4)</small>		
	底板	—	SUS304L <small>(注4)</small>		
	蓋板	—	SUS304 <small>(注5)</small>		
個数		—	1		
漏えい防止のための制御方法			—	<small>(注6)</small> 水位高による サンプタンクポンプ 1台目自動起動回路 水位異常高による サンプタンクポンプ 2台目自動起動回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室サンプタンク（2号機と共用）」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS304L-HP」と記載

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS304-HP」と記載

(注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) 廃樹脂貯蔵室 Bサンプタンク (1・2号機共用)	廃樹脂貯蔵室 Bサンプタンク (1・2・3・4 号機共用)
種 類		—	埋込円筒形	変更なし
容 量	m ³ /個		□以上 (注2) (4 (注3))	
最 高 使 用 圧 力		—	大気圧	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1,600 (注3)	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (注4) (6 (注3,5))	
	屋 根 板 厚 さ	mm	□ (注2) (22 (注2,3))	
	平 板 厚 さ	mm	□ (注6) (19 (注3,5))	
	機 器 ド レ ン 入 口 外 径	mm	60.5 (注3,7)	
	機 器 ド レ ン 入 口 厚 さ	mm	□ (注7) (3.9 (注2,3))	
	床 ド レ ン 入 口 外 径	mm	114.3 (注3,7)	
	床 ド レ ン 入 口 厚 さ	mm	□ (注7) (6 (注2,3))	
	高 さ (注8)	mm	2,000 (注3)	
材 料	胴 板	—	SUS304	
	屋 根 板	—	SUS304 (注5)	
	平 板	—	SUS304	
個 数		—	1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	(注9) 水位高による サンプタンクポンプ 1台目自動起動回路 水位異常高による サンプタンクポンプ 2台目自動起動回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室Bサンプタンク」と記載


(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) □」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和59年10月16日付

け59資庁第9851号にて認可された工事計画の添付図面第7-2図「廃棄物処理設備の構造図（廃樹脂貯蔵室Bサンプタンク）」による。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和59年10月16日付け59資庁第9851号にて認可された工事計画の添付資料2「強度計算書」による。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「液位高によるサンプタンクポンプ1台自動起動回路 液位高々によるサンプタンクポンプ2台自動起動回路 液位低によるサンプタンクポンプ2台自動停止回路」と記載

			変更前	変更後
名称			(注1) サンプタンク (1・2号機共用)	サンプタンク (1・2・3・4号機共用)
種類	—		埋込たて置円筒形	
容量	m ³ /個		□以上 (注2) (12 (注3))	
最高使用圧力	—		大気圧	
最高使用温度	℃		65	
主要寸法	胴内径	mm	2,600 (注3)	変更なし
	胴板厚さ	mm	□ (注4) (6 (注3,5))	
	屋根板厚さ	mm	□ (注2) (22 (注2,3))	
	平板厚さ	mm	□ (注6) (22 (注3,5))	
	廃樹脂供給タンク ドレン入口管台外径	mm	89.1 (注2,3)	
	廃樹脂供給タンク ドレン入口管台厚さ	mm	□ (注2) (5.5 (注2,3))	
	床ドレン入口 管台外径	mm	114.3 (注3,7)	
	床ドレン入口 管台厚さ	mm	□ (注7) (6 (注2,3))	
	機器ドレン入口 管台外径	mm	89.1 (注3,7)	
	機器ドレン入口 管台厚さ	mm	□ (注7) (5.5 (注2,3))	
	高さ (注8)	mm	2,840 (注3)	
材料	胴板	—	SUS304	
	屋根板	—	SUS304 (注5)	
	平板	—	SUS304	
個数	—		1	
漏えい防止のための 制御方法	—		水位高による サンプポンプ1台目 自動起動回路 水位異常高による サンプポンプ2台目 自動起動回路	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「サンプタンク※ ※：1，2号機共用」と記載

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付図面第4-1図「廃棄設備の構造図(サンプルタンク)」による。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 」と記載

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年7月31日付け8資庁第7298号にて認可された工事計画の添付資料2「強度計算書」による。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載

(10) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	(注1,2) 弁 (2V-9961A,B) ～ 弁 (2A0V-9965) (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.3	(注4) 3.9	SUS27TP	変更なし				
	(注1) 弁 (2A0V-9965) ～ A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク および 弁 (2V-9964B) 出口 (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.3	(注4) 3.9	SUS27TP	弁 (2A0V-9965) ～ A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク および 弁 (2V-9964B) 出口 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし			
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備						変更なし					
						変更なし					

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	(注5) 弁 (2V-9964B) 出口 ～ E、G廃樹脂 貯蔵タンク (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP	気体、液体又は固体廃棄物処理設備	弁 (2V-9964B) 出口 ～ E、G廃樹脂 貯蔵タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし		
	(注6) D廃樹脂 貯蔵タンク 入口分岐点 ～ F、H廃樹脂 貯蔵タンク (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP		D廃樹脂 貯蔵タンク 入口分岐点 ～ F、H廃樹脂 貯蔵タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし		

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	(注7) A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク ～ 弁 (2V-9964C) 入口 および 廃樹脂貯蔵室 ドラム詰室 (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.3	(注4) 3.9	SUS27TP	気体、液体又は固体廃棄物処理設備	A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク ～ 弁 (2V-9964C) 入口 および 使用済樹脂 移送容器 出口ライン接続部 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし			
								0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP
									0.98	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備 (1・2号機共用)	(注8) E、G廃樹脂 貯蔵タンク ～ C廃樹脂 貯蔵タンク 出口分岐点 (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP	気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備 E、G廃樹脂 貯蔵タンク ～ C廃樹脂 貯蔵タンク 出口分岐点 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし				

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	(注9) F、H廃樹脂 貯蔵タンク ～ 弁 (2V-9964C) 入口 (1・2号機共用)	(注3) 0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP	気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	F、H廃樹脂 貯蔵タンク ～ 弁 (2V-9964C) 入口 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし		
	(注10) 廃樹脂貯蔵タンク 出口ライン合流点 ～ 廃樹脂供給タンク (1・2号機共用)	0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP	廃樹脂貯蔵タンク 出口ライン合流点 ～ 廃樹脂供給タンク (1・2・3・4 号機共用)	変更なし			
		0.98	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP					

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	(注11) 廃樹脂供給タンク ～ 溶離器 (1・2号機共用)	0	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	GNCF3	気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	廃樹脂供給タンク ～ 溶離器 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし				
		0.98	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP							
	(注12) 溶離器 ～ 硫酸回収器 (1・2号機共用)	0	65	(注4) 27.2	(注4) 2.9	GNCF3		溶離器 ～ 硫酸回収器 (1・2・3・4 号機共用)					

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	(注13) 硫酸回収器 ～ A、B中和タンク (1・2号機共用)	0	65	(注4) 27.2	(注4) 2.9	気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	硫酸回収器 ～ A、B中和タンク (1・2・3・4 号機共用)	変更なし			
	(注4) 60.5			(注4) 3.9	GNCF3						
	(注14) A中和タンク ～ 廃液供給ポンプ (1・2号機共用)	0	65	(注4) 27.2	(注4) 2.9		A中和タンク ～ 廃液供給ポンプ (1・2・3・4 号機共用)	変更なし			
	0.98			65	(注4) 27.2						

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	(注14) 廃液供給ポンプ ～ 蒸発器 (1・2号機共用)	0.1	120	(注4) 27.2	(注4) 2.9	GNCF1	気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備	廃液供給ポンプ ～ 蒸発器 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし		
			(注4) 27.2	(注4) 2.9	SUS316LTP						
		0.98	65	(注4) 27.2	(注4) 2.9	GNCF3					
	(注14) 蒸発器 ～ コンデンサ (1・2号機共用)	0.1	120	(注4) 60.5	(注4) 3.5	SUS304TP		蒸発器 ～ コンデンサ (1・2・3・4 号機共用)	変更なし		

変 更 前							変 更 後								
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料		名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料			
	圧 力	温 度						圧 力	温 度					(MPa)	(°C)
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	(注14) 蒸発器 ～ 濃縮液ポンプ (1・2号機共用)	0.1	120	(注4) 48.6	(注4) 3.7	GNCF1	気体、液体又は固体廃棄物処理設備	蒸発器 ～ 濃縮液ポンプ (1・2・3・4号機共用)	変更なし	(注4) 60.5	(注4) 3.9	GNCF1			
	(注14) 濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2号機共用)	0.98	120	(注4) 48.6	(注4) 3.7	GNCF1								濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし
	(注15) 濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2号機共用)	0.7	65	(注4) 34.0	(注4) 3.4	SUS316LTP									
	(注15) 濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2号機共用)	0.98	65	(注4) 34.0	(注4) 3.4	SUS316LTP		濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし						
	(注14) 濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2号機共用)	0.98	120	(注4,14) 34.0	(注4,14) 3.4	(注14) GNCF1								濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし
	(注14) 濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2号機共用)	0.98	120	(注4,14) 34.0	(注4,14) 3.4	(注14) GNCF1		濃縮液ポンプ ～ A、B濃縮 廃液タンク (1・2・3・4号機共用)	変更なし						

変更前						変更後											
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料						
	圧 力	温 度					圧 力	温 度									
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)							
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	(注16) A、B濃縮 廃液タンク ～ A、B濃縮 廃液タンク 出口合流点 (1・2号機共用)	0.7	65	(注4) 34.0	(注4) 3.4	A、B濃縮 廃液タンク ～ A、B濃縮 廃液タンク 出口合流点 (1・2・3・4 号機共用)	変更なし										
		0.98	65	(注4) 34.0	(注4) 3.4												
	(注17) B中和タンク ～ サンプルタンク (1・2号機共用)	0	65	(注4) 34.0	(注4) 3.4	GNCF3						B中和タンク ～ サンプルタンク (1・2・3・4 号機共用)	変更なし				
				(注4) 34.0	(注4) 3.4	SUS304TP											
				(注4,5) 48.6	(注4,5) 3.7	(注5) GNCF3											
				(注4) 89.1	(注4) 5.5	SUS304TP											

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
		—				気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備 A、C、E、G 廃樹脂貯蔵タンク 入口ライン分岐点 ~ A、C、E、G 廃樹脂貯蔵タンク 出口ライン合流点 (1・2・3・4 号機共用)	0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
		—				気体、 液体又は 固体廃棄物 処理設備 B、D、F、H 廃樹脂貯蔵タンク 入口ライン分岐点 ~ B、D、F、H 廃樹脂貯蔵タンク 出口ライン合流点 (1・2・3・4 号機共用)	0.7	65	(注4) 60.5	(注4) 3.9	SUS304TP

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁2-9961Aおよび2号機廃樹脂タンク出口ライン弁2-9961B~A、B、C、D廃樹脂貯蔵タンクおよびタンク入口ヘッダ盲板」と記載

(注2) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注3) SI単位に換算したものである。

(注4) 公称値

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁2-9964B出口~E、G廃樹脂貯蔵タンク」と記載

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「D廃樹脂貯蔵タンク入口ライン分岐点~F、H廃樹脂貯蔵タンク」と記載

- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B、C、D廃樹脂貯蔵タンク～廃樹脂貯蔵室ドラム詰室およびタンク出口ヘッダ盲板」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「E、G廃樹脂貯蔵タンク～C廃樹脂貯蔵タンク出口ライン分岐点」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「F、H廃樹脂貯蔵タンク～弁2-9964C入口」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1号機及び2号機廃樹脂貯蔵タンク出口ライン分岐点～廃樹脂供給タンク」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク～溶離器」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離器～硫酸回収器」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「硫酸回収器～溶離廃液濃縮装置」と記載
- (注14) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置～A、B濃縮廃液タンク」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B濃縮廃液タンク～A、B濃縮廃液タンク出口ライン合流点」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置～サンプルタンク」と記載

6. 3 堰その他の設備に係る次の事項

(1) 原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の漏えいの拡大を防止するために施設する堰の名称、主要寸法、材料及び取付箇所並びに床面及び壁面の塗装の範囲及び材料

			変 更 前 ^(注1)	変 更 後
名 称			A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク室 (1・2号機共用) ^(注2)	A、B、C、D 廃樹脂貯蔵タンク室 (1・2・3・4 号機共用)
主要寸法	高 さ	mm	2,000 以上 ^(注2)	変更なし
床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲		—	床面及び床面から 200cm以上までの壁面 ^(注2)	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート ^(注2)	
	床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂 ^(注2)	
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和57年4月16日付け57資庁第5277号にて認可された工事計画の参考資料-2「漏えいの拡大を防止するための堰その他の設備（放射性物質濃度 $1\mu\text{Ci}/\text{cm}^3$ 以上の容器）及び施設外への漏えい防止のための堰その他の設備変更前後対比表」による。

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			(注1) E、F、G、H 廃樹脂貯蔵タンク室 (1・2号機共用)	E、F、G、H 廃樹脂貯蔵タンク室 (1・2・3・4 号機共用)
主要 寸法	高 さ (注2)	mm	1,100 以上 (注3)	変更なし
(注4) 床 面 及 び 壁 面 の 床 塗 装 の 範 囲		—	床面及び床面から 110cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート (注3)	
	(注4) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵タンク室」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「—」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

			変 更 前	変 更 後
名 称			溶離廃液濃縮装置室 (1・2号機共用)	溶離廃液濃縮装置室 (1・2・3・4号機共用)
主要 寸法	高 さ (注1)	mm	100 以上	変更なし
(注2) 床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲		—	(注3) 床面及び床面から 10cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート	
	(注4) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置室」と記載

			変 更 前	変 更 後
名 称			溶離器・硫酸回収器室 (1・2号機共用)	溶離器・硫酸回収器室 (1・2・3・4号機共用)
主要 寸法	高 さい <small>(注1)</small>	mm	—	変更なし
	<small>(注2)</small> 床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲	—	床面及び床面から 50cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	—	
	<small>(注3)</small> 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離器・硫酸回収器室」と記載

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃樹脂供給タンク室 (1・2号機共用)	廃樹脂供給タンク室 (1・2・3・4号機共用)
主要 寸法	高 さい <small>(注1)</small>	mm	—	変更なし
床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲 <small>(注2)</small>		—	床面及び床面から 150cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	—	
	床面及び壁面の塗装 <small>(注3)</small>	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク室」と記載

			変 更 前	変 更 後
名 称			A濃縮廃液タンク室 (1・2号機共用)	A濃縮廃液タンク室 (1・2・3・4号機共用)
主要 寸法	高 さ ^(注1)	mm	—	変更なし
	^(注2) 床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲	—	床面及び床面から 250cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	—	
	^(注3) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A濃縮廃液タンク室」と記載

			変 更 前	変 更 後
名 称			B濃縮廃液タンク室 (1・2号機共用)	B濃縮廃液タンク室 (1・2・3・4号機共用)
主要 寸法	高 さ ^(注1)	mm	—	変更なし
	^(注2) 床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲	—	床面及び床面から 250cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	—	
	^(注3) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B濃縮廃液タンク室」と記載

(2) 原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰の名称、主要寸法、材料及び取付箇所並びに床面及び壁面の塗装の範囲及び材料

			変 更 前	変 更 後
名 称			E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵室 (1・2号機共用) <small>(注1)</small>	E. L. <input type="text"/> m 廃樹脂貯蔵室 (1・2・3・4号機共用)
主要寸法	高 　　　　　さ <small>(注2)</small>	mm	50 以上 <small>(注3)</small>	変更なし
床 面 及 び 壁 面 の 塗 装 の 範 囲 <small>(注4)</small>		—	床面及び床面から 5cm以上までの壁面	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート <small>(注3)</small>	
	床面及び壁面の塗装 <small>(注4)</small>	—	エポキシ樹脂	
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—	<input type="text"/>	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵室」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「—」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床高E. L. m階面」と記載

			変更前	変更後
名称			(注1) E. L. [] m 廃樹脂処理建屋 (1・2号機共用)	E. L. [] m 廃樹脂処理建屋 (1・2・3・4号機共用)
主要寸法	高さ (注2)	mm	100 以上	変更なし
(注3) 床面及び壁面の 塗装の範囲		—	(注4) 床面及び床面から 10cm以上までの壁面	
材料	堰	—	鉄筋コンクリート	
	(注5) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	—	
	設置床	—	[]	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋※ 床高E. L. 17.2m階面 ※1, 2号機共用」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「塗装範囲 床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面」と記載

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床高E. L. []m階面」と記載

			変更前	変更後
名称			(注1) E. L. []m 廃樹脂処理建屋 (1・2号機共用)	E. L. []m 廃樹脂処理建屋 (1・2・3・4号機共用)
主要寸法	高さ (注2)	mm	—	変更なし
(注3) 床面及び壁面の 塗装の範囲		—	(注4) 床面及び床面から 10cm以上までの壁面	
材料	堰	—	—	
	(注5) 床面及び壁面の塗装	—	エポキシ樹脂	
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	—	
	設置床	—		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋※ 床高E. L. 10.2m階面 ※1, 2号機共用」と記載

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「堰の高さ」と記載

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「塗装範囲 床面及び床面から10cm以上までの壁面」と記載

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗料」と記載

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「床高E. L. []m階面」と記載

6. 4 原子炉格納容器本体外の廃棄物貯蔵設備又は廃棄物処理設備からの流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置又は自動警報装置の名称、種類、計測範囲、取付箇所及び個数

(1/4)

変 更 前 (注1)						変 更 後							
名 称	種 類	計 測 範 囲	警 報 動 作 範 囲	取 付 箇 所		個 数	名 称	種 類	計 測 範 囲	警 報 動 作 範 囲	取 付 箇 所		個 数
(注2)	(注2)	(注2)	(注2)	系 統 名 (ライン名)	A、B、C、D 廃樹脂貯蔵 タンク室 床ドレンライン	4	A、B、C、D 廃樹脂 貯蔵タンク 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)	電極式	60mm 以上	60mm 以上	系 統 名 (ライン名)	設 置 床	同左
A、B、C、D 廃樹脂 貯蔵タンク 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	フロ ー ト 式	床面 -270mm 以上	床面 -270mm 以上	設 置 床	設 置 床								

変 更 前						変 更 後						
名 称	種 類	(注4) 計測 範囲	(注4) 警報 動作 範囲	取	付 箇 所	個 数	名 称	種 類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数
(注5) E、F、G、H 廃樹脂 貯蔵タンク 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	60mm 以上	60mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	E、F、G、H廃樹脂貯蔵タンク室 床ドレンライン (注1)	(注1) 4	E、F、G、H 廃樹脂 貯蔵タンク 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)					変更なし
				設 置 床								
(注8) 廃樹脂 供給タンク 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	廃樹脂供給タンク室 床ドレンライン (注1)	(注1) 1	廃樹脂 供給タンク 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)					変更なし
				設 置 床								

変 更 前						変 更 後									
名 称	種 類	(注4) 計測 範囲	(注4) 警報 動作 範囲	取	付 箇 所	個 数	名 称	種 類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数			
(注11) 溶離器・ 硫酸回収器 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	溶離器・硫酸回収器室 床ドレンライン (注1)	(注1) 1	溶離器・ 硫酸回収器 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	溶離器・硫酸回収器室 床ドレンライン (注1)	(注1) 1	溶離器・ 硫酸回収器 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし
設 置 床	設 置 床														
(注13) 溶離廃液 濃縮装置 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	溶離廃液濃縮装置室 床ドレンライン (注1)	(注1) 1	溶離廃液 濃縮装置 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	溶離廃液濃縮装置室 床ドレンライン (注1)	(注1) 1	溶離廃液 濃縮装置 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)	変更なし
設 置 床	設 置 床														

変 更 前						変 更 後						
名 称	検出器 の 種 類	(注4) 計測 範囲	(注4) 警報 動作 範囲	取 付 箇 所		個 数	名 称	検出器 の 種 類	計測 範囲	警報 動作 範囲	取付 箇所	個 数
(注15) A濃縮 廃液タンク 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	A濃縮廃液タンク床ドレンライン (注1)	(注1) 1	A濃縮 廃液タンク 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)				変更なし	
				設 置 床								
(注17) B濃縮 廃液タンク 漏えい 検出装置 (1・2 号機共用)	電極式	20mm 以上	20mm 以上	系 統 名 (ラ イ ン 名)	B濃縮廃液タンク床ドレンライン (注1)	(注1) 1	B濃縮 廃液タンク 漏えい 検出装置 (1・2・ 3・4 号機共用)				変更なし	
				設 置 床								

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和57年4月16日付け57資庁第5277号にて認可された工事計画の参考資料－3「漏えいの検出装置及び警報装置の種類、動作範囲及び取付箇所（放射性物質濃度 $1\mu\text{Ci}/\text{cm}^3$ 以上の容器）変更前後対比表」による。

(注3) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

- (注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「動作範囲」と記載
- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂貯蔵タンク」と記載
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「配管バルブエリア（各タンクに各1個）」と記載
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中央制御室原子炉盤一括表示 廃樹脂貯蔵室制御盤個別表示」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク（1，2号機共用）」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂供給タンク室床ドレン受口の下流配管」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃樹脂処理建屋制御室個別警報表示 1号機中央制御室一括警報表示」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離器・硫酸回収器（1，2号機共用）」と記載
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離器・硫酸回収器室床ドレン受口の下流配管」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置（1，2号機共用）」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「溶離廃液濃縮装置室床ドレン受口の下流配管」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A濃縮廃液タンク（1，2号機共用）」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A濃縮廃液タンク室床ドレン受口の下流配管」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B濃縮廃液タンク（1，2号機共用）」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「B濃縮廃液タンク室床ドレン受口の下流配管」と記載

II. 工事工程表

今回の工程は次のとおりである。

項 目		年 度		2020		2021		2022		2023	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
放射線管理設備	現地工事期間			※1 □							
	検査可能時期	工事の計画に係る全ての工事が完了した時						※2 ◇			
廃棄設備	現地工事期間			□							
	検査可能時期	構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時		◇	-----			◇			
	検査可能時期	工事の計画に係る全ての工事が完了した時						◇			

※1：設備の共用化のみであり、現地工事を伴わないため、手続きの期間を示す

※2：設備の共用化に係る検査

Ⅲ. 変更を必要とする理由を記載した書類

変更を必要とする理由

高浜発電所第1号機及び第2号機において、原子炉の運転に伴い発生する放射性固体廃棄物のうちイオン交換器廃樹脂を廃樹脂貯蔵タンクで貯蔵もしくは、廃樹脂処理装置にて処理している。一方、高浜発電所第3号機及び第4号機においては、原子炉の運転に伴い発生する放射性固体廃棄物のうち脱塩塔使用済樹脂（以下、「使用済樹脂」という。）を使用済樹脂貯蔵タンクで貯蔵することとしている。今後も運転を継続することから、使用済樹脂が発生することとなる。

そのため、高浜発電所第1号機及び第2号機で使用している廃樹脂処理装置及び廃樹脂貯蔵タンク他の共用化等を行い、使用済樹脂を廃樹脂処理装置にて処理、廃樹脂貯蔵タンクへの受入れを実施するものである。

IV. 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の認可の申請をした年月日を記載した書類

当該事業用電気工作物に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条3の9第1項の認可の申請をした年月日は以下のとおり。

高浜発電所第1号機

設計及び工事計画認可申請書番号

関原発第146号（2020年7月22日）

以下、設計及び工事計画認可申請書の一部補正を行った書類番号

関原発第373号（2020年11月20日）

IV. 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の認可の申請をした年月日を記載した書類

当該事業用電気工作物に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条3の9第1項の認可の申請をした年月日は以下のとおり。

高浜発電所第1号機

設計及び工事計画認可申請書番号

関原発第146号（2020年7月22日）

以下、設計及び工事計画認可申請書の一部補正を行った書類番号

関原発第373号（2020年11月20日）

関原発第446号（2020年12月 9日）

V. 添付書類

「原子力発電工作物の保安に関する省令第15条第1号の規定に基づく指示について」（平成25年7月8日原規技発第1307081号・20130628商第22号）により、原子力規制委員会及び経済産業大臣から添付することを要しない旨の指示があった以下の添付書類については、添付を省略する。

省略した添付書類

- 1 設備別記載事項の設定根拠に関する説明書
- 2 安全設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書
- 3 原子力発電所の火災防護に関する説明書
- 4 放射線管理設備に係る機器の配置を明示した図面
- 5 放射線管理用計測装置の検出器の取付箇所を明示した図面
- 6 品質保証に関する説明書
- 7 廃棄設備に係る機器の配置を明示した図面及び系統図
- 8 耐震性に関する説明書
- 9 強度に関する説明書
- 10 構造図
- 11 流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び自動警報装置の構成に関する説明書、検出器の取付箇所を明示した図面並びに計測範囲及び警報動作範囲に関する説明書